

## 世界の主要温室効果ガス濃度は過去最高値 ～WMO 温室効果ガス年報第7号の発表～

大気中の温室効果ガス観測データについて、気象庁が世界の専門家と協力して解析した結果、2010年の二酸化炭素、メタンおよび一酸化二窒素の世界平均濃度は過去最高であることが判明しました。この結果は、本日、世界気象機関(WMO)の温室効果ガス年報第7号として発表されました。

気象庁は、世界気象機関(WMO)の温室効果ガス世界資料センター(World Data Centre for Greenhouse Gases: WDCGG)を運営しており、世界中の温室効果ガス観測データを収集・解析しています。今般、2010年12月までの世界の温室効果ガス観測データについて、当庁が世界の温室効果ガス専門家と協力して解析し、結果を取りまとめました。その結果が、WMOより11月21日に温室効果ガス年報(Greenhouse Gas Bulletin)第7号として発表されました。年報の全文(気象庁訳)は、気象庁ホームページ([http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/infohp/wdcgg/wdcgg\\_bulletin.html](http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/infohp/wdcgg/wdcgg_bulletin.html))でご覧いただけます。

今回の解析結果によると、大気中の主要な温室効果ガスである二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、メタン(CH<sub>4</sub>)及び一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)の2010年における世界平均濃度は、過去最高値を記録したことが分かりました。このうち2009年から2010年にかけての二酸化炭素と一酸化二窒素の濃度増加量は、ともにその前の年の値を上回り、さらに、最近10年間で平均した年間の増加量と比べても上回っています。また、メタンの濃度も4年間連続で増加しています。

本年報は、気候変動枠組条約第17回締約国会議(COP17)(11月28日～12月9日、南アフリカ・ダーバン)で配布される予定です。

今回発表された年報に掲載された解析結果の概要は別紙のとおりです。

本件に関する問い合わせ先：地球環境・海洋部 環境気象管理官付  
全球大気監視調整官  
電話 03-3212-8341(内線4112)  
03-3287-3439(直通)

## WMO 温室効果ガス年報に掲載された解析結果の概要

表1 世界の温室効果ガスの状況

	二酸化炭素 CO <sub>2</sub> (ppm)	メタン CH <sub>4</sub> (ppb)	一酸化二窒素 N <sub>2</sub> O (ppb)
2010年平均濃度	389.0	1808	323.2
前年との差	2.3	5	0.8
これまでの年平均濃度最高値 (最高値を観測した年)	386.7 (2009年)	1803 (2009年)	322.4 (2009年)
最近10年間の平均年増加量	1.97	2.6	0.75
工業化以来の増加分の比率 (工業化以前の濃度)	39% (約280)	158% (約700)	20% (約270)

注: ppm: 体積比で百万分の一、ppb: 体積比で十億分の一

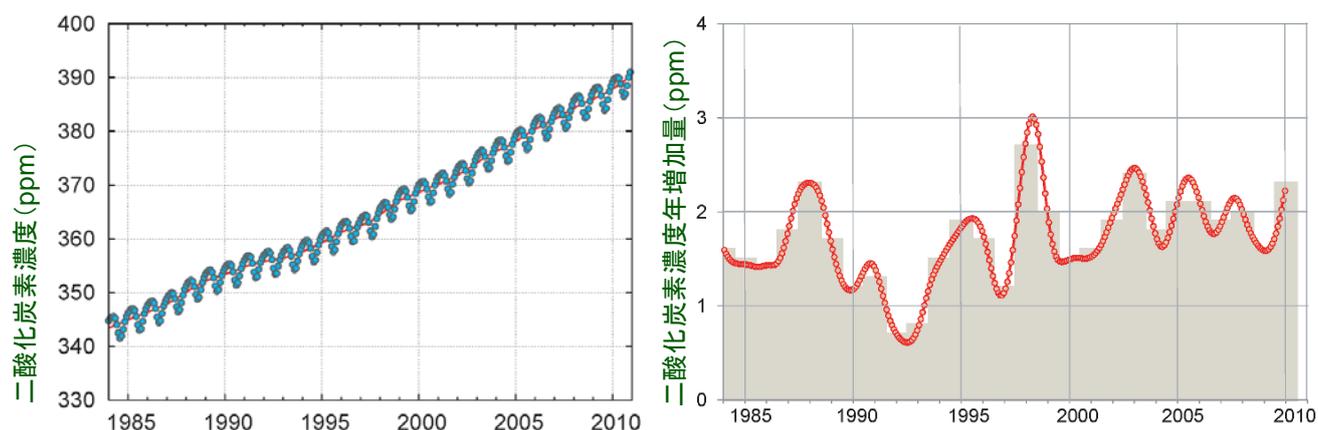


図1 二酸化炭素の世界平均濃度(左)とその年増加量の経年変化(右)

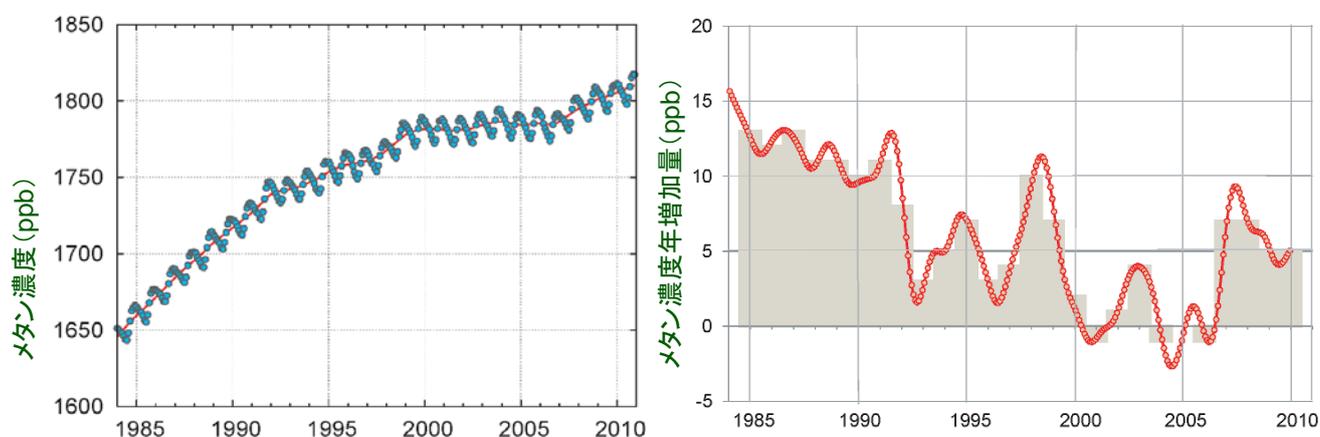


図2 メタンの世界平均濃度(左)とその年増加量の経年変化(右)